

渡島管内教育実践表彰受賞!!



2月19日（水）に、函館盲学校において函館聾学校と函館盲学校の両校が渡島管内教育実践表彰を受賞し、表彰式がありました。函館聾学校としては、令和元年に続いてここ10年間で2度目の受賞となりました。

今回は、渡島・檜山管内の特別な教育的支援を必要とする幼児児童生徒や保護者、関係機関等への長きにわたる支援が評価されたものです。

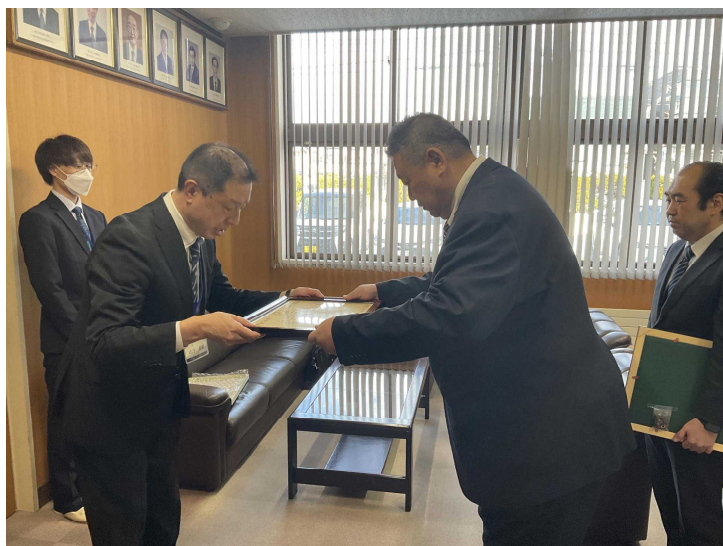
聾学校では、盲聾教育後援会の支援のもと、校区である渡島・檜山管内に盲学校と協力し、各地の教育委員会、保健福祉関係部署、発達支援センターなどを訪問させていただき、毎年度、できる範囲内で聴覚障がい教育や本校の機能についての理解・啓発に努めております。その際には、管理職（校長や教頭）がコーディネーターに同行し、ポスター等の資料を持参して説明させていただいております。その際に説明している内容としましては、主に次の通りです。（R4年度校長のページの原稿「聾学校にしかできないこと、聾学校だからできること」に記載。）

- 1 1000人に1～2人の割合で生まれる聴覚障がい児ですので普段はほとんど発見されませんが、気付いたときには「様子を見る」などの期間をおかずに、すぐにお知らせください。
- 2 0歳6ヶ月以前に療育に結び付くと、言語発達に有利です。
- 3 保健師さんなどの研修として聴覚障がいに関する研修を3年～4年に一度など定期的にご依頼ください。

最近では、情報がアップデートされてきました。令和6年5月に新聞報道があった信州大の耳鼻咽喉科頭頸部外科学のチームが長野県で行った大規模疫学調査によると、聾学校の対象になるお子さんは、0.84%で1000人に1人に満たない割合でした。（難聴のお子さんが片耳難聴を含めて生まれる割合は、1000人に1.62人でしたので、1～2人は正しいと言えますが、これまでこのような調査がされたことがなかったので、より正しい情報としてお伝えできるようになりました。）

また、遺伝子検査が一般的となり、難聴の原因がサイトメガロウイルス感染症が疑われる場合の対処は、生後1ヶ月以内の判断と投薬治療が必要になることが一般的になってきています。

本校では、医療とも連携を密にし、可能な限り「様子を見るという形の放置」をなくし、早期からの療育開始につなげたいと考えています。そのことにより、お子様の健全な言語発達（手話や口話）を促し、保護者がお子さんとの自然なかわり合いの中で健全な子育てができるように支援します。



山下幹雄渡島教育局長から表彰状をいただきました。



山下渡島教育局長、井上盲学校長と門員

今回の受賞は、本校のコーディネーターが地道な支援を継続してきたおかげです。校長が教職員の代表として賞状をいただきました。

これまでの御理解と御支援に感謝申し上げます。

今後とも、本校の教育に対しまして変わらぬ御理解と御支援をどうぞよろしく御願いたします。